

# 日本クロージャーは、イノベーションに上限はないことを証明した

食品・飲料業界向けのクロージャーとキャップを専門とするパッケージングメーカーは、イノベーションを強化し、新しいグローバル市場に参入するために、海外のパートナーと協力しています。



「納得のいく製品を作るために、改良を重ねる」

日本クロージャー株式会社 代表取締役社長中嶋寿氏

スーパーの棚に並んでいる商品を見て、まず想像するのは、商品そのものや中身ではなく、その商品が外からどう見えるか、つまりパッケージではないでしょうか。パッケージは、その製品が持つ個性や性格、機能性などを通じて、消費者の多様な嗜好に訴え、その製品のブランドを確立するために不可欠なものです。このように、ものづくりの過程で美や品質、機能を重視する文化を持つ日本人は、パッケージング・ソリューションの名手といえるでしょう。

食品、飲料、医療、衛生、化学など幅広い分野の製品に使われるプラスチックや金属のキャップを開発、製造、販売している日本クロージャー株式会社の中嶋寿社長は、「日本人は常に理想郷を意識し、現状に満足することなく美しさと機能の完成度を追求しています」と話す。「納得のいく製品を作るために、改良に改良を重ねる。より良い機能を追求し、理想的な製品を持つために常に技術開発を行う、それが日本ブランドが評価される理由の一つだと考えています。」

日本の有名なものづくり



の哲学は、伝統的に職人的な品質、細かい配慮、そしてカイゼンの精神にあった。しかし現在では、市場の要求や顧客の要望に応え、顧客が求めるソリューションを提供することも重要だと、中嶋は説明する。

「“何があってもお客様のニーズに応えることが、ものづくりの本質である”と考えてきました。要するに、困っているお客様からの要望や依頼は断らないということです」と言う。「お客さまとのコミュニケーションを大切にし、お客さまが本当に困っていることは何なのか。まず、お客様のことをよく理解し、その困っている方のためにどうしたらいいかを考えて、製品を開発することを大切にしています。そのために、私たちは常に創造性と革新性を発揮し、最先端の技術を追求することを心がけています。これは創業以来変わらないことであり、理想のモノづくりを目指す姿勢が、長年のお客様からの信頼につながったと自負しています。」

「このものづくりの哲学を軸に、同じ志を持つ企業同士がコラボレーションすることで、革新的な能力を高め、最適なソリューションの創出を目指すこともあ

ります。特に、海外市場開拓のための知識・技術・研究を共有できる海外パートナーとの共創が重要です。2019年、日本クロージャーはアメリカのパッケージング企業Aptarと、テザードキャップの設計・開発・製造などに関するクロスライセンス契約を締結しました。」

「海外企業との共創・協業については、必ずしもキャップを安く提供することが目的ではなく、コストダウンや収益性を追求するものでもありません」と、中嶋は説明する。「むしろ、当社の既存技術を生かし、海外パートナーや海外クロージャーメーカーとうまくマッチングさせ、それぞれの市場ニーズに合った専門性の高いキャップを提供することを考えています。既存の技術が、どこかの国で市場を開拓するかもしれない。あるいは、その国の社会的課題の解決に貢献できれば、それが技術者やスタッフの最大のモチベーションとなり、彼らの成長にもつながるでしょう。私たちが追求するのは、利益だけではなく、社会にどれだけの価値を提供できるかということです。」

世界一の長寿国であり、65歳以上の高齢者が33

%を占める日本社会の変化に合わせて、日本クロージャーは製品を進化させてきた。

「創業以来、キャップを開ける力をいかに少なくするかというのを追求してきました」と中嶋は語る。

「例えば、海外のキャップメーカーから導入したジャムなどに使われる『ツイスト・オフ・キャップ』は当初、開けるのに強い力が必要でした。さまざまな改良を重ねた結果、誰でも簡単に開けられるキャップにすることに成功しました。」

「2017年にはシンガポールで『アイデアマラソン』を開催し、高齢者や障がい者を含む誰もが開けやすいキャップとボトルのセットを開発しました。消費者や大手飲料ブランドと直接意見交換しながら商品を開発するこのプロジェクトを通じて、多様性を活かしたオープンイノベーションの重要性を改めて認識し、東洋製罐グループホールディングスのシンガポールにおける開発拠点として「FUTURE DESIGN LAB」を開設するに至りました。」

こうした企業の社会的責任（CSR）をしっかりと考えている日本クロージャーでは、プラスチック問題の克服も目標の一つだと中嶋は言う。

“私には、プラスチックを使い続けても地球が滅びないように、プラスチッククロージャーの循環型経済を実現するという大きな夢と目標があります。企業として、利益だけを追求するのではなく、どんな地域でもそこに住む人々の幸せに大きく貢献したい。そのために、CSRや社会貢献は、現在策定している成長戦略の大きな目標の一つです。”